

けしの種

サーバッティの町にキサーゴータミーという若い母親がいました。
幼いひとり息子が急病であつた息をひきとってしまいました。家族が泣く泣く葬式の用意をはじめると、キサーゴータミーは息子を抱いていました。

「待って、この子を助ける薬をさがしてくるわ」



家族がひきとめるひまもなく、キサーゴータミーは子どもを抱いてかげだしてきました。

町はずれの物知りのおばあさんの家にかげこみました。

「子どもが死にかけています。良い薬を教えてください、お願いします。おばあさん」

はげしく波うつ母親の胸にしっかりと抱かれた子どもを見て、おばあさんはいきました。

「かわいそうに、この子はもう死んでいるよ。死んだ子が生き返る薬があったらどんなにいいか…。わたしも子どもを亡くしたから…」

キサーゴータミーの耳には入りませんでした。

少し遠くの評判の高い名医の家へ走りました。

「先生、お願いします。子どもを助けてください」

冷たくなったわが子を暖めるように抱きしめる母親に医者はいきました。

「奥さん、そればかりはわたしにもできないのです」

「そんなことをおっしゃらず、お願いしますからこの子を助けてください、お願いします…」

泣きぐずれるキサーゴータミーの眉をやきしくなでて、医者はなくさめるようにいきました。

「あなたの薬ならわかります。ジェータの林にいらっしゃるおシャカきまにお聞きなさい」

薬 とう一言をたのみ、キサーゴータミーは残る力をふりしぼってジェータの林へ向かいました。

「わかりました、それではどこかでけしの種をもらってきなさい、ただし一度も葬式を出したことのな、家からですよ」

おシャカきまのことは、青ざめていたキサーゴータミーのほほは、少し赤みをとりのどしました。

「坊や、もうすぐお薬をあげますからね」

キサーゴータミーは息子にほほずりすると、ふたたび町へ向かいました。

大きな集落が見えてくると、キサーゴータミーの足はひとりでこ速くなりました。

「すみませんが、この子の薬にけしの種を少しだけいただけませんか」

農家の主婦はこころよ、返事をして、すぐ奥から持ってきました。

「お宅はお葬式を出したことがありますか」

げざんな顔でキサーゴータミーを見ながら主婦は答えました。

「はい、去年、主人を亡くしました、前の年には両親が..。でも、いったいなぜ・・・」

キサーゴータミーの話を聞いて主婦は目頭をおきえていました。

「お気の毒に、けしの種ならどこの家にもあるでしょう。でもお葬式を出したことのな、家はねえ・・・。見つかるといいですね」

キサーゴータミーは次の家を訪ねました。子どもが大勢いました。あとから出てきた母親が、自分の妹が死んでその子どもたちをひきとったところだといいました。その次の家の若い女性は、やっと生まれた赤ちゃんがお腹の中で死んでいたと話しました。

次の家ではおじいさんが笑いながらいきました。

「わしは婆さんと二人暮らしだ。息子は二人あるがな。わしの親と婆さんの親、それに父親の両親と母親の両親、婆さんの方も同じこと、さあて、これで何人死んだかのう、ひい、ふう、みい、...、それにわしらももうすくた、ワッハッハ」

一人ひとりの話を聞くうちに、キサーゴータミーの胸の苦しい熱いかたまりは次第に溶けていきました。

「坊や、ごめんなさい、あなたのお薬はみつからなかったの、でもおシヤカきまにお礼を申し上げます、きましよう、坊や、いちばん大切なことを教えてくれてありがとう・・・」

キサーゴータミーのほほに涙が流れましたが、刺すような痛みは消えていました。

(法句経註釈)

「弘典童話」(東本願寺)

けしの種

- 1) けしの種 を読んで下さい。
- 2) どの町の出来事ですか。()
- 3) 若い母親の名前は、何ですか。()
- 4) 幼いひとり息子が、どうなりましたか。()
- 5) それで、若い母親は、最初、どうしましたか。
- 6) 医者は、なくさめるように、母親に何を言いましたか。
- 7) お釈迦様は、どこにおられましたか。()
- 8) お釈迦さまは、母親にどうすれば良いとおっしゃいましたか。
- 9) けしの種は、どこにありましたか。()
- 10) 死人を出していない家がありましたか。()
- 11) 若い母は、亡くなった幼い息子を通して、何を教わったと思いますか。

年 組 番 名前()